

【日 程 表】

月日		時間	内 容
1	7/24(水)	15:00	焼津市役所出発 貸切バスで、羽田空港へ
		22:00	羽田空港より、カンタス航空でシドニー空港へ出発 【機内泊】
2	7/25(木)	08:30	シドニー空港到着
		11:20	シドニー空港より、ホバート空港へ出発
		13:15	ホバート空港到着後、市の公用バスで市内へ
			オリエンテーションとホストファミリーとの対面式 各自のホームステイ宅へ 【ホームステイ】
3	7/26(金)	8:30～15:20	ホストスクールデイ(8:55～12:40 アートプログラム) ・焼津の学生の挨拶 ・各学校の学校長等へプレゼントの贈呈 【ホームステイ】
4	7/27(土)	終日	ホストファミリーデイ 【ホームステイ】
5	7/28(日)	終日	
6	7/29(月)	8:30～15:20	ホストスクールデイ(8:55～12:40 アートプログラム)
		15:45～16:45	市長表敬訪問レセプション (ホバート市庁舎 市長応接室) 【ホームステイ】
7	7/30(火)	8:45～14:15	ボノロング動物保護区見学 【ホームステイ】
8	7/31(水)	8:30～15:20	ホストスクールデイ(8:55～12:40 アートプログラム) ・タスマニア州総督邸表敬訪問 【ホームステイ】
9	8/1(木)		マウントカーメル集合 ・お別れのあいさつ
		10:10	市役所よりホバート空港へ ・ホバート空港よりシドニー空港へ出発 ・シドニー空港到着後にシドニー市内観光
		20:50	カンタス航空で羽田空港へ出発【機内泊】
10	8/2(金)	5:15	羽田空港到着
		6:30	羽田空港より、貸切バスで焼津市へ出発
		9:30	焼津市役所到着

感想文・報告書

焼津市からホバート市へ派遣された7人の学生が貴重な体験を感想文と自分で撮影した写真で報告します。

題名 充実した 10 日間

学校名：静岡サレジオ中学校

学年：3 年

氏名：原田 茉実

ホバート短期学生派遣で私はかぞえきれないほどの貴重な体験をすることができました。このプログラムに参加した理由は、小学校の修学旅行でオーストラリアに行った時、ホストファミリーといろいろな事をお話することができないまま日本に帰ってきてしまったから次外国に行くときはいろんな人と話せるようになりたいと思い、英語についていろいろ学びました。そして、学校の授業だと決められたことを話すだけなので自分がどれだけ話せるかわからないから、学んだ成果がどれだけあるのかわからないから自分を試すいい機会だなと思ったからです。ホバートへ出発するときはホストファミリーの所へ一人だけで行くことに不安と緊張がありました。でもホバートにつくとホストファミリーが私をやさしく迎え入れて下さって、それまで抱えていた不安と緊張はどこかへ飛んでいきました。

ホバートで沢山の貴重な経験をした中で一番の思い出はホストファミリーと過ごした時です。ホストファミリーは、優しいという言葉では表せないほど本当に優しく接してくれて、こんなに優しい人がいるんだと思いました。初めてホストシスターと会った時、緊張して自分から話しかけられない私に沢山話しかけてくれました。好きなもの聞かれたとき、雪が好きと言ったらウェリントン山という雪が降る山に行って雪を触らせてくれたり、見たことのない食べ物を沢山トライさせてくれたり、日本では体験できないことをたくさん体験させてくれました。休みの日にブルーにアイランドというホバートから少し離れたところにある島へ連れていってもらったときとても広い別荘があって、びっくりしました。ホストシスターとホストファミリーのお友達とバスケやバトミントン、卓球など沢山のスポーツをしました。日本だと一つのスポーツしか集中しないから、こんなにたくさんのスポーツを普通に楽しんでいるところを見て、私もいろいろなことができるようになりたいなと思った。

ホストマザーが日本のことが好きで何度も日本に行ったことがあると聞いたときに、なぜかうれしくなりました。そして私が住んでいるところに興味を持ってきて焼津について深くいろいろ聞いてくれました。だけど、全部の質問には答えられませんでした。また、会話の中に知らない単語が沢山出でてくるとまったくわからなくなってしまう事があった時、その難しい単語をホストファミリーは私の知っているくらいの似た意味の単語などを言ってくれました。また、焼津をグーグルマップで見せたら、地震などについていろいろ心配してくれました。

二番目の思い出は、ホストシスターと一緒に学校へ行ったことです。

ホバートの学校は日本の学校と全然違いました。日本の学校の授業では、紙の宿題を提出して、決められた席に座って、先生の話をも黙って聞いて、ノートに授業の内容を書く。という決められた中で授業を受けているけど、ホバートの学校の授業は、生徒が一人一枚持っているタブレットから宿題を提出して、先生を困らせた机に生徒が自由に座って、先生の話も聞いてそれについてみんなで話し合う、というおもしろい授業だった。みんな話せばっかりの授業を受けているけど大丈夫なのかな、と思ったがみんな授業の目的をしっかりとらえていて理解していた。私は体育の話しているグループに入らせてもらいみんなの考えを聞いていると一人では思いつかないアイデアなどがどんどんできてきたので、日本の授業もみんなで自由に話せるようになればいいなと思った。ランチタイムは教室の中で食べるのではなく、みんな外に出て好きな子同士で食べて、さらに、食べ終わった後にそのまま外で追いかけっこなどをしたり、図書館で自由におしゃべりをしたりしたので、本当に楽しすぎる学校生活だなと思いました。

私はこの10日間で一瞬本当に英語が話せているなと実感できる時が時々ありました。それは、ホストファミリーが会話中、私が聞き取りやすいようにひとつひとつの単語を強調して話してくれたり様々な工夫をしてくださったからです。でも、知らない単語が沢山でてきたら一気に分からなくなってしまうので、もっといろんな単語を学んでいろんな人と沢山話せるようにがんばろうと思いました。また、日本には無い楽しかったことをいろんな人に話したいです。

最後に、この10日間私をホームステイ先として受け入れてくれて、沢山の貴重な体験をさせてくれて、一生の思い出をつくらせてくれたホストファミリーに感謝します。そして、今回このプログラムに参加できてとてもうれしかったです。

題名 挑戦の10日間

学校名：港中学校

学年：3年

氏名：戸塚 美琴

私は以前ホストファミリーとしてホバートからホストシスターを受け入れたことがあり、タスマニア・ホバートについて教えてもらい興味が湧いたので今回参加しました。又、長い間学んで来た英語を実際に試す機会がなかったので挑戦してみようと思ったことも理由の一つです。

今回初めての海外旅行だった私にとってホームステイは楽しみだったものの、不安も大きかったです。対面後、家についてからすぐにお土産を渡しました。お土産の一つであるお寿司のマグネットや焼津のパンフレットを見ながら、日本の料理についてホストファミリーと盛り上がりました。振り返ると、初日からたくさん話げできたのですぐに仲良くなれたと思います。

二日目の学校では、驚くことがたくさんありました。一つはモーニングティーがあることです。日本でいえばおやつ時間は十時頃ですが、私は自分の学校にもおやつ時間があったらいいのになあ一とっていました。ですから、私にとって理想の学校だったので驚くと共にとても羨ましく感じました。二つ目は授業です。グループ活動が多くタブレットを使っていました。私は一人で行う自主学習より集団で話し合うグループ活動の方が好きなので一緒に参加させてもらえて嬉しかったです。放課後、ホストファミリーがプールに連れていってくれました。私とホストファミリーは泳ぐのが好きだという共通点もあり、一緒に楽しめて嬉しかったです。休日はホストシスターのおばあさんの家へ行き昼食を一緒に食べました。巻き寿司を頂き、久しぶりに日本の味を楽しみました。他にもサラマンカマーケットや美術館へ行ったり、ポニーにも乗ったりしました。ホストファミリーはとても親切で3日目の夜、「英語ばかりで日本語が恋しくなるでしょう」といわれYouTubeから日本語でドラえもんを見せてくれました。私のことをとても気遣ってくれてホームシックになることなく楽しく過ごせました。

私は今回の体験でオーストラリアでしか体験できないことをたくさん体験させて頂きました。特に私が感動したのは自分の伝えたいことが相手に伝わったことです。自分の思っていること、伝えたいことがホストファミリーや学校で仲良くなった生徒さん達に英語で話すことがうまく伝わらなくて難しかったからです。しかし、伝えようとする気持ちがあれば違う言語でも思いを伝えることができる学びました。ホバートはとても素晴らしい地域だと思います。自然が美しく、ホバートの人達の優しさを感じることができました。私にとって最高の思い出です。今回の貴重な体験で出会った全ての人達に感謝、感謝でいっぱいです。また、オーストラリアへ行きたいとおもいました。これからの生活で、今回学んだことを生かしていけるように努力していきたいと思っています。

とても貴重な体験をさせて頂きました。ありがとうございました。

題名 10 日間の挑戦

学校名：常葉大学附属橋高等学校

学年：2 年

氏名：福井 千晴

私が今回ホバート短期学生派遣に参加させていただいたのは、海外でどのくらい自分の英語が通じるのかということにとっても興味があったからです。私にとってこの 10 日間は、毎日が刺激的で多くのことを学ぶことができました。

私が、今回の経験を通して学んだことは 3 つあります。1 つ目は挨拶です。ホストスクールでは、ほとんどの生徒が挨拶をしてくれます。日本語で「こんにちは。」と、言われた時はとても嬉しくなりました。サランカマーケットへ行った時も本当に多くの方が声をかけてくださいました。日本人はシャイな人が多いけど外国の方は、みんなフレンドリーで誰にでも明るく挨拶をし、心から歓迎してくれているのが伝わってきました。挨拶は、言語の違う世界でも人と人を繋ぎ、温かい気持ちにさせてくれる素晴らしいものだと改めて感じました。

2 つ目に英語でのコミュニケーションです。最初の 2 日間くらいは、思っていた以上に英語のスピードが速くて質問に答えるのに精一杯でした。また、自分の思っていることがうまく伝わらずに苦労しました。しかし、3 日目くらいからは会話に少しずつ参加できるようになり、ホストシスターと通学バスでの 1 時間、たくさん話ことができました。最初は自分から話しかけられなかったけど、勇気を出して積極的に話してみると会話が楽しくなりました。そのおかげでホストスクールの生徒とも仲良くなることができました。うまく伝わらなかったり、わからないことがあったりもします。それでもお互いに伝えたいという気持ちさえあれば、伝えることを実感しました。

3 つ目は文化の違いです。私のホスト先では、朝食、昼食を自分で行うスタイルだったので慣れるまでは大変でしたが日本ではできなかったことも自分でできるようになり、貴重な良い経験ができました。最終日には一緒に日本の巻き寿司を作り、ホストファミリー全員がおいしいと言って食べてくれました。また、夕食を食べ終わると早めに自分の部屋で過ごし、全員 8 時くらいには寝ていました。ホストスクールでは、1 人 1 台 iPad を持っていて授業も日本では考えられないくらい緩く、ゲームをしていたり、お菓子を食べていたりする人もいました。昼食以外におやつタイムがあったのも海外ならではの感じました。

思えば、ホバートでの生活はあっという間でした。ホバートは、自然豊かで空気のきれいな街だと思います。何より、ホバートの方の親切で温かい人柄に何度も支えられました。言語の壁を乗り越えて笑ったり、悲しんだりできる素晴らしさに感動しました。私は今回が初めての海外であり、ホームステイでもありました。多少の不安もあったけど、充実して過ごすことができたのは、ホストファミリーやホストスクールの先生、生徒、引率して下さった山梨先生、野澤さん、市役所の皆さん、一緒に行った仲間、そして私をホバートに行かせてくれた家族のおかげです。心から感謝しています。ありがとうございました。これからも人とのつながりや出会いを大切に、学んだことを今後の人生に生かしていきます。

題名 思い出

学校名： 藤枝東高校

学年：1年

氏名：杉山 みどり

ホバートでの10日間は、私にとって大変有意義な時間となりました。

私は、小さいころから英会話スクールに通っていて、英語を使っているけれど、やはり日本では感じるこのできないものがあり、貴重な体験ができました。

日本を出発するとき、一人でホームステイすることがとても怖かったです。

でも、一緒に留学する友達がとてもおもしろく、やさしく、徐々に緊張が解けていきました。

ホバートにつくとホストシスターが手書きのポスターをもって迎えてくれてとてもうれしかったです。

私のホストシスターは、aurelia という中学一年の女の子で初めて会ったときは背が高くとてもきれいでスタイル抜群のこでクールな感じだったので、どう接していいかわからなかったけど、学校ではたくさんの友達に囲まれて、funny で一緒に過ごしていくたびにもの凄く仲良くなれたと思います。

1、2日目は本当に何を話した例いのかわからず、私の好きなお菓子や食べ物の話をしたり、ご飯の量がとても多かったけど、無理してすべて完食したり、犬とあそんだり今思えば必死に一日一日をすごしていたなとおもいます。でも、空手やハンドボールなどのスポーツや一緒にお買い物に連れて行ってもらいショッピングをしたり動物園に行き餌あげや動物のかわいい話をしたり、メイクが得意と言っていたので一からメイクを教えてもらったりと多くの体験を通じてホストファミリーになじんでいくことができました。学校でも現地の子たちはとてもフレンドリーでたくさん質問をしてくれたりランチでは私を囲んで自然に輪に入れてくれたりすこしのことでもきづかってくれてずっとこの学校にいたいな、みんなとランチがしたいなとおもうほどでした。

いろいろな経験をさせていただいた中で私が一番思い出に残っているのは aurelia と面白い顔になるカメラで150枚くらいたくさんの写真を撮ったことです。aurelia と私は趣味がよく似ていて面白いことや笑うことが大好きなので撮った写真を夜に見返して爆笑してから寝るという生活をしました。また、二人とも kpop が好きなので二人でダンスをしたのもとてもおもしろかったです。

私はこの留学を通して自分の英語力の低さを痛感しましたが、自分のコミュニケーション力は少しはつうようすることがわかりました。もっと英語力を身につけ、再開したときに幅広い出来事を話せたらいいなと思います。

このような、自分の将来に向け足りないことを教えてくれる機会を与えてくださった交換留学プログラムを企画してくださった焼津市役所の皆様、むかえいれてくださったホバートの方々、私にとっても良い思い出を与えてくださったホストファミリー私を送り出してくれた親など多くの方に感謝しています。本当にありがとうございました。

題名 glitter

学校名： 静岡県立清水南高等学校 学年：2年 氏名：大谷 更紗

こんなに学ぶ事が多く、毎日が充実し楽しいと思った10日間は初めてでした。

私はホバートに行く前に3つの目標がありました。

一つ目は、ホームステイ先で、日常生活の違いを学ぶ事です。

ホストシスターのソフィと妹のルルは、毎朝食洗器のお皿を片付ける、ランチを自分で作る事など家事をしていて偉いなと思いました。私も、帰国したらお手伝いをもっとしようと思いました。

部活や宿題がないので、放課後自由な時間が多いので様々な種類の習い事をやっていたり、睡眠時間が長く、時間を有意義に使っていて羨ましくいい環境だと思いました。

二つ目は、英語のスキルアップの為に現地の学校で、一日に自分から5人以上に話しかける事です。

実際に学校へ行ってみると日本人よりもフレンドリーで、私が話しかけるよりも先に話しかけてくれたので自分から進んで話しかける事は出来なかったけど、沢山の子と会話する事が出来ました。

また3日目くらいから英語に慣れ、ホストファミリーに自分から質問をしたり食事の時に会話に参加出来るようになり楽しかったです。しかしソフィの習い事の演劇について行き参加した時、言いたかったセリフが英語で何と言ったらいいのかわからず、とても悔しい思いもしました。

三つ目は、ホバート市の人々はどんな事に興味があり、何を大切にしているのかを感じる事です。

ホームステイ先の家やレストラン、パブでさえも、紙やステンレスのストローを使用していました。

そして、どのお店で買い物をして「マイバックを待っていますか」と聞かれ、持っていない時は紙袋に入れてくれ、ビニール袋を使用しているお店はありませんでした。また外ではタバコを吸っている人は、ひとりも目にする事はありませんでした。このような事から、日本人よりも環境への意識が高いという事を実感し見習わなくてはいけないと思いました。

タスマニア博物館では、ホストファミリーのみんなが私に分かりやすい英語で説明してくれてタスマニア先住民やタスマニア動物を大切にしているという事を感じました。

今回、初めてのホームステイでは今まで行った海外旅行では知る事が出来なかった日本との違いや同じ点をたくさん発見する事が出来ました。

ホバートで経験した事や出会った人々は、これからの私の人生を豊かにしてくれると思います。

もっと語学を勉強し世界の人たちと関わり合い視野を広げ活躍したと思います。

貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

題名 ホバートで過ごした10日間

学校名：静岡県立藤枝西高校

学年：2年

氏名：澤田 美羽

私はオーストラリアへ留学するのは2回目でした。国は同じでも場所によって文化や風景は違いました。ホバートは自然がとても美しく毎日写真を撮りました。朝学校に行くときも夜家に帰ってくる時もホストファミリーは必ず今日はいいい日になるといいね！とか学校はどうだった？など無言の時間なんて今振り返ってみると1秒もなかったです。さみしいと思ったこともないくらいとても充実して楽しいホームステイが出来たのはとても明るくておしゃべりで素敵なホストファミリーと出会えたからだと思います。そして私の滞在が終わった今でも元気にしてる？とかサッカーの調子はどう？とメールをくれます。部活が忙しくてなかなか返信出来なくても、英語を打つのが遅くともとても楽しく会話が続いています。また、私のホストファミリーはキリスト教を信仰していて夜になるとお祈りをするために車で1時間弱くらいの所にある教会へ行きました。私自身も保育園がカトリックだったので父と子と精霊の皆によってアーメンと日本語ではありましたが、一緒にお祈りをする事ができました。言葉はちがっても祈りを捧げるということは同じで少し嬉しい気持ちになりました。英語をひたすら聞いていたのでリスニング力がupした気がします。私は無事に日本に帰れますようにと心の中で祈っていました。また週末にはショッピングモールやビーチ、リッチモンドや自然あふれる公園などに連れて行ってもらいました。日本と車の規定速度が違ってとっても早くて最初は怖くてびっくりしたけどだんだん慣れました。学校では友達がたくさんできました。言いたいことが英語に出来なかつたり詰まったりしたときも分かるうとしてくれたり待っててくれたり領いてくれたので落ち着いて英語を喋ることができて最後の方ではスムーズに会話できるようになりました。また廊下ですれ違う生徒や保育園生の子たちがありがとう！と大きな声で言ってくれたり、こんにちは！と微笑んでくれてとても親日感があっていいなと思いました。

そして、なによりいっしょにオーストラリアへ行った日本人の仲間の存在がとても大きく感じました。それまではみんなはじめましてだったけれど、オーストラリアに着くまでにみんな仲良くなりました。そして、パンばかりで食事の面で困った時、お米のあるホストファミリーの友達がおにぎりを作ってきてくれました。とても久しぶりにお米を食べたその時感動しました。思い出すと今でも泣きそうなくらいとてもおいしかったです。ひとりだったら心細かったことも日本人の仲間のおかげで乗り越えることができました。ほんとに感謝です。私は焼津市民ではありませんが、それでも暖かく受け入れて下さった焼津市役所の方や国際交流課の方引率の山梨先生、旅行会社の勉さん、私を受け入れてくれたホストファミリー、学校で出会った友達、そして日本人の仲間感謝です。来年の春またオーストラリアへ行くことになったので場所は違いますが、もっとオーストラリアの魅力を感じグローバル化の進む現代で活躍できる人材になりたいです。大人になったらタスマニア島のホバートへもう一度行きたいです。

題名 この経験を大切に

学校名：静岡英和女学院高等学校 学年：2年 氏名：今村 丹妃子

私の目標は、自分が今まで身につけてきた英語を活かして現地の人たちと振れ合う事でした。オーストラリアに行くのも、ホームステイをするのも、初めてで楽しみと不安もありました。しかし、この経験が貴重なものとなりました。

現地でホストシスターと会った時は少し気持ちが晴れました。

明るく挨拶をしてくれて、すぐにフレンドリーになることができました。バスの中や一緒に行動するときも、楽しく話せました。

ホストシスターの家は、とてもきれいで、自分の家とは比べ物にならないくらい立派でした。外で牛や鶏、羊も飼っていて家の中は、暖炉があり、うらやましかったです。

ホストファミリーとゲームをしたりテレビを見てくつろぐ時間が多かったです。午後8:30に寝るというのには、とても驚かされました。ホストマザーの料理はどれも手作りで最高においしかったです。私のための部屋も用意してくれたり酢飯やトンカツまで出してくれて、おもてなしに感動しました。

ショッピングやビーチに行って虹を見れたことは、とても印象に残っています。

学校では、ホストシスターの友達と振れ合いました。

午前11時になると、スナックを食べたり、図書館でおしゃべりをしました。

みんな笑顔で話しかけてくれたので、みんなの質問に対して私も笑顔で答えられました。お別れをする日は、ホストファミリーと写真を撮り、学校ではホストシスターと何度も抱き合いました。

この経験で私が学んだことは1つ。自分の英語がまだできていなかったこと。ホストファミリーや友達に自分の思いをうまく伝えられなかったことが悔しいです。そんな理由で1日目にホームシックになった私ですが、ホストシスターが私を支えてくれました。私の代わりに言ってくれたり、ホストシスターの父母はゆっくりと話しかけてくれました。この優しさを私は一生忘れません。

家族の一員として、私を受け入れてくれたことに今も感謝の気持ちでいっぱいです!!この経験を活かして、私はもっと英語を磨いていき、そしてたくさんの人達と振れ合い、世界を自分の五感を使って感じていきたいと思います。